

ナランヤ夫ノ道路ニ迷ヒ飢餓ニ陥リ家ヲ破リ身ヲ喪
 フ徒ノ如キハ畢竟不學ヨリシテカ、ル過チヲ生スル
 ナリ從來學校ノ設アリテヨリ年ヲ歴ルコト久シト雖
 凡或ハ其道ヲ得サルヨリシテ人其方向ヲ誤リ學問ハ
 士人以上ノ事トシ農工商及ヒ婦女子ニ至ツテハ之ヲ
 度外ニシキ學問ノ何物タルヲ辨セス又士人以上ノ稀
 ニ學フ者モ勤モスレハ國家ノ為ニスト唱ヘ身ヲ立ル
 ノ基タルヲ知ラスシテ或ハ詞章記誦ノ末ニ趨リ空理
 虚談ノ途ニ陥リ其論高尚ニ似タリト雖凡之ヲ身ニ行
 ヒ事ニ施スコト能ハサルモノ少カラス是即チ沿襲ノ
 習弊ニシテ文明普ネカラス才藝ノ長セスシテ貧乏破
 産衰家ノ徒多キ所以ナリ是故ニ人タルモノハ學ハス
 ンハ有ヘカラス之ヲ學フニハ宜シク其旨ヲ誤ルヘカ

學

ラス之ニ依テ今般文部省ニ於テ學制ヲ定メ追々教則
 ヲモ改正シ布告ニ及フヘキニツキ自今以後一般ノ人
 民華族農工及婦女子必ス邑ニ不學ノ戸ナク家ニ不學ノ人ナ
 カラシメン事ヲ期ス人ノ父兄タルモノ宜シク此意ヲ
 体認シ其愛育ノ情ヲ厚クシ其子弟ヲシテ必ス學ニ從
 事セシメサルヘカラサルモノナリ高上ノ學ニ至テハ
 其人ノ才能ニ任カ
 スト難モ幼童ノ子弟ハ男
 女ノ別ナク小學ニ從事セシ
 メサルモノハ其父兄ノ越
 度タルヘキ事
 但從來沿襲ノ弊學問ハ士人以上ノ事トシ國家ノ為
 ニスト唱フルヲ以テ學費及其衣食ノ用ニ至ル迄多
 ク官ニ依頼シ之ヲ給スルニ非サレハ學ハサル事ト
 思ヒ一生ヲ自棄スルモノ少カラス是皆惑ヘルノ甚
 シキモノナリ自今以後此等ノ弊ヲ改メ一般ノ人民
 他事ヲ拙チ自ラ奮テ必ス學ニ從事ヤレムヘキ様心

得へキ事

右ノ通り被 仰出候條地方官ニ於テ邊隅小民ニ至ル迄不洩様便宜解譯ヲ加ヘ精細申諭文部省規則ニ隨ヒ學問普及致シ候様方法ヲ設可施行事

今般被 仰出候旨モ有之教育ノ儀ハ自今尚又厚シ御手入可有之候處從來府縣ニ於テ取設候學校一途ナラス加之其内不都合ノ儀モ不少依テ一旦悉令廢止今般定メラレタル學制ニ循ヒ其主意ヲ汲ミ更ニ學校設立可致候事

但外國教師雇入有之場所ハ當省ヨリ官員ヲ派出シ地方官協議ノ上可及處分候條夫迄ノ處生徒教授向等不都合無之様可取計尤當省出張ヲ不待學制ノ目

的ニ依リ成丈相運候様可致事 七月 文部省

學制

大中小學區ノ事

第一章 全國ノ學政ハ之ヲ文部一省ニ統フ

第二章 全國ヲ大分シテ八大區トス之ヲ大學區ト稱シ每區大學校一所ヲ置ク

第三章 大學區ノ分別左ノ如シ

第一大區

- | | | |
|-----|------|------|
| 東京府 | 神奈川縣 | 埼玉縣 |
| 入間縣 | 木更津縣 | 足柄縣 |
| 印旛縣 | 新沼縣 | 茨城縣 |
| 群馬縣 | 栃木縣 | 宮都官縣 |
| 山梨縣 | 静岡縣 | |

計一府十三縣東京府ヲ以テ大學本部トス

第二大區

愛知縣 額田縣 濱松縣

犬上縣 岐阜縣 三重縣

度會縣

計七縣愛知縣ヲ以テ大學本部トス

第三大區

石川縣 七尾縣 新川縣

足羽縣 敦賀縣 筑摩縣

計六縣石川縣ヲ以テ大學本部トス

第四大區

大坂府 京都府 兵庫縣

奈良縣 堺縣 和歌山縣

飾磨縣 豐岡縣 高知縣
名東縣 香川縣 岡山縣
滋賀縣

計二府十一縣大坂府ヲ以テ大學本部トス

第五大區

廣島縣 鳥取縣 島根縣

北條縣 小田縣 石鐵縣

神山縣 山口縣 濱田縣

計九縣廣島縣ヲ以テ大學本部トス

第六大區

長萺縣 佐賀縣 八代縣

白川縣 美々津縣 都城縣

鹿兒島縣 小倉縣 大分縣

福岡縣 三潯縣

計十一縣長寄縣ヲ以テ大學本部トス

第七大區

新潟縣 柏寄縣 置賜縣

酒田縣 若松縣 長野縣

相川縣

計七縣新潟縣ヲ以テ大學本部トス

第八大區

青森縣 福島縣 盤前縣

水澤縣 岩手縣 秋田縣

山形縣 宮城縣

計八縣青森縣ヲ以テ大學本部トス

總計三府七十二縣

第四章 北海道ハ當今第八大區ヨリ之ヲ管ス他日別ニ區分スヘシ

第五章 一大學區ヲ分テ三十二中區トシ之ヲ中學區ト稱ス區毎ニ中學校一所ヲ置ク全國八大區ニテ其數二百五十六所トス

第六章 一中學區ヲ分テ二百十小區トシ之ヲ小學區ト稱ス區毎ニ小學校一所ヲ置ク一大區ニテ其數六百二十一所全國ニテ五万三千七百六十所トス

第七章 中學區以下ノ區分ハ地方官其土地ノ廣狹人口ノ疎密ヲ計リ便宜ヲ以テ郡區村市等ニヨリ之ヲ區分スヘシ

第八章 一中區内學區取締十名乃至十二三名ヲ置キ一名ニ小學區二十或ハ三十ヲ分テ持タレムヘシ此學

區取締ハ專ラ區内人民ヲ勸誘シテ務テ學ニ就カシメ且學校ヲ設立シ或ハ學校ヲ保護スヘキノ事或ハ其費用ノ便用ヲ計等一切其受持所ノ小學區内ノ學務ニ関スル事ヲ擔任シ又一中區内ニ関スル事ハ互ニ相論議シ專ラ便宜ヲ計リ區内ノ學事ヲ進歩セシメン一ヲ務ムヘシ

第九章 學區取締ハ地方官ニ於テ之ヲ命スヘシ
但其人名ハ本省督學局ニ届クヘシ督學局ハ第十五章ニ見ユ
第十章 學區取締ハ其土地ノ居民名望アル者ヲ撰ムヘシ

但レ戸長里正等ヲシテ兼ネシムルモ妨ケナシトス
第十一章 學區取締給料ハ當分其土地ノ情態ニヨリテ之ヲ定ムヘシ此給料ハ土地ヨリ出スヘキモノトス

然レ事實止ムヲ得サルモノハ姑ク官ヨリ其幾分ヲ助給スヘシ

第十二章 一般人民華士族農工ノ學ニ就クモノハ之ヲ學區取締ニ届クヘシ若シ子弟第六歳以上ニ至リテ學ニ就カシメサルモノアラハ委レク其由ヲ學區取締ニ届ケシムヘシ私塾家塾ニ入り及ヒ己ムヲ得サル事アテ師ヲ其家ニ招キ習古セシムルモ皆就學ト云

第十三章 學區取締ハ毎年二月區内人民子弟六歳以上ナルモノ、前年學ニ就クモノ幾人學ニ就カサルモノ幾人ト第一號ノ式ノ如ク表ヲ作り之ヲ地方官ニ出シ地方官之ヲ集メテ四月中督學局ニ出スヘシ

第十四章 官立私立ノ學校及私塾家塾ヲ論セス其學校限り定ムル所ノ規則及生徒ノ増減進否等ヲ書記シ

毎年二月學區取締ニ出スヘシ學區取締之ヲ地方官ニ
出シ地方官之ヲ集メテ四月中督學局ニ出スヘシ

學校ヨリ出ス書記ハ三紙トシ一紙ハ學區取締ニ留
置キ一紙ハ地方官ニ留メ一紙ハ督學局ニ出スヲ法
トス

大學及ヒ外國教師アル校ニ於テハ直ニ地方官督學
局ニ出スモ妨ケナシ

但大學及ヒ外國教師アル校ニ於テモ學區取締其心
得ノ為メ規則并ニ生徒ノ増減進否等ヲ知ラシム
求メハ丁寧ニ之ヲ告クヘシ

第十五章 大學本部毎ニ督學局一所ヲ設ケ督學ヲ置
キ附属官員數名之ニ充テ本省ノ意向ヲ奉シ地方官ト
協議シ大區中ノ諸學校ヲ督シ及教則ノ得失生徒ノ進

否等ヲ檢查シ論議改正スルヲアルヘシ

但大事ハ決テ本省ニ取リ小事ハ其時々之ヲ本省ニ
関申スヘシ

第十六章 督學局ニ於テハ毎年學區取締ヨリ出ス所
ノ表并ニ諸學校ヨリ出ス所ノ書記トヲ以テ學校及生
徒進歩ノ状態并ニ六歳以上ノ男女學ニ就クモノ幾人
就カサルモノ幾人等ノ表ヲ製シ本省ニ送リ本省ニテ
之ヲ上梓公告スヘシ

第十七章 督學局ハ總テ地方官ト協議スヘシトイヘ
ル直ニ學區取締ヲ呼出シ本局ノ意向ヲ諭示スルヲア
ルヘシ

第十八章 地方官ハ總テ督學局ニ協議スヘシ
但督學局完全ナラサルノ間ハ總テ本省ニ申出ツヘ

第十九章 地方官ニ於テハ學務專任ノ吏員一二名ヲ置キ部内ノ學事ヲ擔任セシムヘシ其人名ハ兼テ本省ニ督學局ニ届ケ置クヘシ

學校ノ事

第二十章 學校ハ三等ニ區別ス大學中學小學ナリ校

教則書ハ別冊ニアリ

小學

第二十一章 小學校ハ教育ノ初級ニシテ人民一般必ス學ハスンハアルヘカラサルモノトス之ヲ區分スレハ左ノ數種ニ別ツヘシ然レ均ク之ヲ小學ト稱ス即チ尋常小學女兒小學村落小學貧人小學小學私塾幼稚小學ナリ

第二十二章 幼稚小學ハ男女ノ子年六歳迄ノモノ

小學ニ入ル前ノ端緒ヲ教ルナリ

第二十三章 小學私塾ハ小學教科ノ免狀アルモノ

私宅ニ於テ教ルヲ稱スヘシ

第二十四章 貧人小學ハ貧人子弟ノ自活シ難キモノ

ノヲ入學セシメン為ニ設ク其費用ハ富者ノ寄進金ヲ

以テス是專ラ仁惠ノ心ヨリ組立ルモノナリ仍テ仁惠

學校トモ稱スヘシ

第二十五章 村落小學ハ僻遠ノ村落農民ノミアリ

テ教化素ヨリ閑テサルノ地ニ於テ其教則ヲ少シク省

略シテ教ルモノナリ或ハ年己ニ成長スルモノモ其生

業ノ暇來リテ學ハレム是等ハ多ク夜學校アルヘシ

第二十六章 女兒小學ハ尋常小學教科ノ外ニ女子

ノ手藝ヲ教フ

第二十七章 尋常小學ヲ分テ上下二等トス此二等

ハ男女共必ス卒業スヘキモノトス教則別冊アリ

下等小學教科

一字綴讀并盤上習字 二習字 字形ヲ主トス

三單語讀 四會話讀

五讀本 解意 六脩身 解意

七書讀 解意并盤上習字 八文法 解意

九算術 九九位加減 乘除但洋法ヲ用フ 十養生法 講義

十一地學大意 十二理學大意

十三體術 十四唱歌 當分ニテ缺ク

上等小學ノ教科ハ下等小學教科ノ上ニ左ノ條件ヲ加フ

一史學大意

二幾何學并畫大意

三博物學大意

四化學大意

其地ノ形情ニ因テハ學科ヲ擴張スル為メ左ノ四科ヲ斟酌シテ教ムルコトアルヘシ

一外國語學ノ一二 二記簿法

三畫學 四天球學

下等小學ハ六歳ヨリ九歳マテ上等小學ハ十歳ヨリ十三歳マテニ卒業セシムルヲ法則トス但事情ニヨリ一概ニ行ハレサル時ハ斟酌スルモ妨ケナレトス

第二十八章 右ノ教科順序ヲ踏マスレテ小學ノ科

ヲ授クルモノ之ヲ變則小學ト云フ

但私宅ニ於テ之ヲ教ルモノハ之ヲ家塾トス

中學

第二十九章 中學ハ小學ヲ經タル生徒ニ普通ノ學科ヲ教エル所ナリ分テ上下二等トス二等ナ外工業學校商業學校通辨學校農業學校諸氏學校アリ此外廢入學校アルヘシ

下等中學教科

- 一 國語學
- 二 數學
- 三 習字
- 四 地學
- 五 史學
- 六 外國語學
- 七 理學
- 八 畫學
- 九 古言學
- 十 幾何學
- 十一 記簿法
- 十二 博物學
- 十三 化學
- 十四 修身學

上等中學教科

- 十五 測量學
 - 十六 奏學 當今缺ク
 - 一 國語學
 - 二 數學
 - 三 習字
 - 四 外國語學
 - 五 理學
 - 六 卦畫
 - 七 古言學
 - 八 幾何代數學
 - 九 記簿法
 - 十 化學
 - 十一 修身學
 - 十二 測量學
 - 十三 經濟學
 - 十四 重學
 - 十五 動植地質礦山學
- 下等中學ハ十四歳ヨリ十六歳マテ上等中學ハ十七歳ヨリ十九歳マテニ卒業セシムルヲ法則トス

第三十章 當今中學ノ書器未タ備ラス此際在來ノ書ニヨリテ之ヲ教ルモノ或ハ學業ノ順序ヲ踏マシテ洋語ヲ教ヘ又ハ醫術ヲ教ルモノ通シテ變則中學ト稱スヘシ

但私宅ニ於テ教ルモノハ之ヲ家塾トス

第三十一章 當今外國人ヲ以テ教師トスル學校ニ

ヲイテハ大學教科ニ非サル以下ハ通シテ之ヲ中學ト稱ス

第三十二章 私宅ニアリテ中學ノ教科ヲ教ルモノ

教師タルヘキ證書ヲ得ルモノハ中學私塾ト稱スヘシ其免狀ナキモノハ之ヲ家塾トス

第三十三章 諸民學校ハ男子十八歳女子十五歳以上ノモノニ生業ノ間學業ヲ授ケ又十二歳ヨリ十七歳

マテノ者ノ生業ヲ導カンカ為メ專ラ其業ヲ授ク故ニ多ク夜分ノ稽古アラシムヘシ

第三十四章 農業學校ハ小學ヲ經テ農業ヲ治メントスルモノ、為ニ設ク

第三十五章 通辨學校ハ專ラ通辨ノ事ヲ主トス或ハ商人等交易ノ為メ專ラ通辨ノミヲ志スモノ此校ニ入ル

但外國教師アリト雖ル只語學ノミヲ教ル者ハ之ヲ通辨學校ト稱ス

第三十六章 商業學校ハ商用ニ係ルヲ教フ海内繁盛ノ地ニ就テ數所ヲ設ク

第三十七章 工業學校ハ諸工術ノヲ教フ

大學

第三十八章 大學ハ高尚ノ諸學ヲ教ル專門科ノ學校ナリ其學科大畧左ノ如シ

理學

化學

法學

醫學

數理學

第三十九章 小學校ノ外師範學校アリ此校ニアリテハ小學ニ教ル所ノ教則及其教授ノ方法ヲ教授ス當今ニ在リテ極メテ要急ナルモノトス此校成就スルニ非サレハ小學ト雖モ完備ナルヲ能ハス故ニ急ニ此校ヲ開キ其成就ノ上小學教師タル人ヲ四方ニ派出セン
一ヲ期ス

教員ノ事

第四十章 小學校教員ハ男女ヲ論セズ年齡二十歲以上ニシテ師範學校卒業免狀或ハ中學免狀ヲ得シモノ

ニ非サレハ其任ニ當ルヲ許サス

第四十一章 中學校教員ハ年齡二十五歲以上ニシテ大學免狀ヲ得シモノニ非サレハ其任ニ當ルヲ許サス

第四十二章 大學校教員ハ學士ノ稱ヲ得シモノニ非サレハ許サス

以上三章ハ其目的ヲ示ス數年ノ後ヲ待テ之ヲ行フヘシ後章ハ現今ノ位ニ應レテ之ヲ許スモノトス

第四十三章 私學私塾及家塾ヲ開カント欲スル者ハ其屬籍住所事歴及學校ノ位置教則等ヲ詳記シ學區取締ニ出シ地方官ヲ經テ督學局ニ出スヘシ

第四十四章 私學私塾教員タルモノ總テ規則ニ違ヒ或ハ不行狀アル特ハ之ヲ譴責シ又ハ之ヲ止メシム

ル一アルヘシ

第四十五章 師範學校ニ於テ教授ヲ受ケタル教員

ハ他ノ職務ヲ兼ネ及他ニ轉スヘカラサルヲ法トス

第四十六章 小學教員ハ男女ノ差別ナシ其才ニヨ

リテ之ヲ用フヘシ

第四十七章 教員生徒ヲ教授スルノ功他ニ秀越ス

ルモノアル時ハ公私學校私塾ヲ問ハス督學局地方官

ト協議シ之ヲ本省ニ乞テ之ニ褒賞ヲ與フ

生徒及試業ノ事

第四十八章 生徒ハ諸學科ニ於テ必ス其等級ヲ踏

マシムル一ヲ要ス故ニ一級毎ニ必ス試験アリ一級卒

業スル者ハ試験狀ヲ渡シ試験狀ヲ得ルモノニ非サレ

ハ進級スルヲ得ス

第四十九章 生徒學等ヲ終ル時ハ大試験アリ小學

中學ニ移リ中學ヨリ
大學ニ進ム等ノ類

但大試験ノ時ハ學事關係ノ人員ハ勿論其請求ニヨ

リテハ他官員トイヘテ臨席スル一アルヘシ

第五十章 私學私塾生徒モ其義前二章ニ同シ

第五十一章 試験ノ時生徒優等ノモノニハ褒賞ヲ

與フル一アルヘシ

第五十二章 生徒ノ内學業銳敏後來大成スヘキノ

目的アレバ學資ヲ納ル一能ハス及其衣食ヲ給スル一

能ハサルモノニハ費用ヲ給貸スル一アルヘシ但成業

ノ後年割ヲ以テ之ヲ償フトモ或ハ官ニ奉事シテ使役

ヲ受ルトモ命ニ隨フヘキノ證書ヲ出サレノ年限ヲ定

メ其費用ヲ貸與ス是ヲ三等ニ分ツ年割ヲ以テ償ヒ還
スハ其學業ヲ離テ

五年ノ後ヨリスヘシ病死等
アルハ之ヲ棄ツ

公費ヲ受ル二年ノ者

同三年ノ者

同五年ノ者

此生徒八大區ニ平分シテ全國千五百人ト限ル故
ニ缺員アルニ非サレハ増加スルヲ得ス

二年公費ヲ受ル者ハ官ニ使役スル一四年償還ス
ルハ六年ヲ以テス

三年ノ者ハ使役七年償還九年

五年ノ者ハ使役十一年償還十五年

此生徒一人ノ費用一年百二十兩一切官ニ於テ之
ヲ賄フ

但使役ノ間ハ相當ノ歳俸ヲ給スルハ勿論タルハ

レ若其役ヲ奉セサルモノハ前ノ官費ヲ償フヘシ

第五十三章 私學私塾生徒モ其義前章ニ同シ

第五十四章 生徒ニ費用ヲ給貸スルニハ其父兄及

本人ヨリ證書ヲ出サレシメ且其修業シタル學科ノ證書
ヲ出サレシム 檢査法及証書式
等ハ別冊アリ

第五十五章 生徒ニ費用ヲ給貸スルニハ其學業ヲ

授ケレ教師ヨリ其生徒學業銳敏後來大ニ成ルヘキノ
目的アルノ状并ニ其曾テ進級セシ處ノ學科ノ証書ヲ

具ヘ幾年ノ公費ヲ給スヘキ云々等教師見込ヲ詳記シ
之ヲ督學局ニ達スヘシ 校長アル校ニ在テハ校長其見
込ヲ添ヘ之ヲ達スヘシ

督學局之ヲ地方官ニ議シ其貧困ノ状ヲ詳ニシ而シテ
後其學業ヲ試験シ本省ヘ申達スヘシ

但此生徒ハ公私大中小學ニ拘ハラヌ且試験ハ地方

官學務掛立會ヲ以テ法トスヘシ

第五十六章 師範學校ノ生徒ハ第五十三章ニ定ムル所ノ生徒員數ノ内ヨリ之ヲ採ルヘシ

但レ當今設クル所ノ師範學校ノ生徒ハ此限ニアラス

第五十七章 第五十二章ニ定ム所ノ生徒ノ外ニ公撰生ヲ設ク此ノ公撰生ハ他日之ヲ論定ス

海外留學生規則ノ事

第五十八章 海外留學生徒ハ都テ本省ニ於テ之ヲ管轄ス

第五十九章 留學免狀ハ本省ニ於テ渡スヘシ

但渡海免狀ハ外務省ヨリ請求相渡スヘシ

第六十章 留學中諸般ノ事件ハ辨務使ヘ依頼シ其

指令ニ從フヘシ且生徒ノ中人撰ノ上生徒總代ノ者一人或ハ幾人辨務使ヨリ申付ヘシ

第六十一章 留學ニ官撰ト私願トノ別アリ官私共都テ本省ニ於テ之ヲ達スヘシ

第六十二章 官撰留學生ヲ撰ムニ二等ノ差アリ一ノ初等留學生トシ一ヲ上等留學生トス

第六十三章 初等留學生ハ中學卒業ノモノヨリ撰ム

第六十四章 初等留學生ハ稟性誠實達敏ニシテ十九歳以上二十五歳迄ノ者小學初級ヨリ順次進級シ中學ノ課程ヲ卒業セシ證書アルモノヲ公ニ撰擧スヘシ

但國內大學校ニ入りテ研業センヲ願フ者ハ撰ニ

當ル人トイヘ凡其情願ニ任スヘシ

第六十五章

初等留學生ヲ撰ムニハ其學業ヲ授ケ

シ教師ヨリ生徒中學卒業試験ノ證書ヲ具ヘ其撰舉見込ヲ詳記シ之ヲ督學局ニ達ス督學局之ヲ試験シ甲第ノモノハ即チ其試験ノ始末ヲ詳記シ本省ニ出シ其允可ヲ得ルヲ法トス

但試験ノ時ハ本省官員ハ勿論其請求ニヨリテハ他官員タリトモ臨席スル一アルヘシ

第六十六章

官撰留學生ハ第六十四章第六十五章

ニ定ムル所ノ規則ニ隨ヒ其進級ノ順序確實ニシテ後來成業ノ目的アルニ於テハ生徒公私ノ差別アル一ナシ

第六十七章

官撰留學生ノ學科ハ官ヨリ命スヘシ

ト雖氏當人ノ望ミト其教師ノ見込トニヨル一アルヘシ

シ故ニ當人ノ望ミ某ノ科ヲ修業スルニアレハ教師ノ思考果シテ適當スルヤ否ヲ詳記シ試験ノ節教師ヨリ之ヲ出スヲ法トス

但此記載ハ兩紙ヲ出スヘシ一紙ハ之ヲ本省ニ留メ一紙ハ之ヲ辨務使ニ遣ハス

第六十八章

官撰留學生外國へ著セハ某地ニアリ

テ某ノ學校ニ入り某ノ人ニ從テ某科ヲ學ブ等ノ事ヲ詳記シ本省へ届クヘシ

但シハケ月ヲ越テ其報ナキ時ハ即辨務使ニ掛合ヒ呼戻スヘシ

第六十九章

官撰留學生ハ外國ニアリテ學科進級

ノ時ハ必ス本省ニ届クヘシ

第七十章

官撰留學生歸朝ノ時ハ其外國ニアリ

テ研業セシ所ノ状ヲ具シ本省へ出スヘシ本省ニ於テ之ヲ試験スルヲ法トス

但外國ニ於テ大學卒業ノ免状アルモノハ試験ニ及ハス

第七十一章 大學校ニ於テ專門ノ學科ヲ卒業セシ

モノハ官撰ヲ以テ順次順次トハタトハハ大學科卒業ノモノモ人アルニハ教師試験ヲ

ナシ其内甲第ノモノモ人若クハ二人ヲ採リテ上等生ノ撰ニ當ツヘシ而シテ下第ノモノハ半年若クハ一年

撰ニテ前ノ如ク海外ニ派出シ其業ヲシテ一層精密鍊熟セシム是ヲ上等留學生トス

第七十二章 初等留學生ハ通常年限滿五年ニ過ク

ヘカラス

第七十三章 上等留學生ハ通常年限滿三年トスヘシ

第七十四章 初等留學生ハ一年ノ定員百五十人ト定ム

第七十五章 上等留學生ハ定員ナシトイヘク多キ

モ三十人ニ過クヘカラス

第七十六章 大學設置ノ日ニ當ツテ中等留學生ヲ設クルハ其時ニヨルヘシ

第七十七章 初等留學生學資

初二年 九百ドルヲル

但止ムヲ得ス都下ニ滞在スヘキモノハ千ドルヲルヲ給スヘシ

後三年 千ドルヲル

但往還途中旅費ハ定限ノ外タリ支度料ハ上程前學資一ヶ月分ニ當ル高ヲ賜フ

第七十八章 上等留學生學費

千五百ドルラルヨリ千八百ドルラル迄

但往返旅費支度料前章同シ

第七十九章

私願留學生ハ官費ニ拘ラストイヘ氏

學科上ニ於テハ官撰留學生ニ準スヘシ唯精密ノ檢査ヲ受ケサルノミ

第八十章

留學私願ノモノハ其教師ヨリ見込ヲ詳

記スルヲ第六十五章ノ如クシ之ヲ本省ニ出スヘシ本省ニ於テ其見込書ヲ以テ檢査ノ上可否スヘシ

但研業セシ所ノ學料規則ニ入ラサルモノハ留學ノ名義ヲ免サス

第八十一章

私願留學ハ年限其人ノ望ミニ任スヘシ

但一ケ年大概六七百ドル以上ヲ費スニ非サレハ留學為シ難キヲ以テ其員數ヲ出スヲ能ハサルモノハ之ヲ許サス

第八十二章

留學中居所轉換ハ官私共止ムヲ得サ

ル事故アルニ非サレハ容易ニ許サス必ス辨務使ノ指揮ヲ待ツヘシ

第八十三章

留學中疾病事故等アルトキハ其費別

ニ辨務使ヨリ受取リ私費留學ノモノハ此地ニ於テ之ヲ本省へ上納スヘシ

第八十四章

公費ノ生徒ハ上程ノ節學費一年分ヲ

渡シ翌年ヨリハ前半年分米國ハ前年九月歐州ハ前年七月後半年分米國ハ其年ノ三月歐州ハ其年ノ正月本省ヨリ辨務使へ廻送スヘシ私費ノモノモ之ニ同シ故

ニ私費ノ分ハ前以テ本省ニ納ムヘシ

第八十五章 官撰留學生ハ歸朝ノ上必官ニ奉職

スルカ又ハ官費ヲ償還スルカ共ニ命ニ隨フヘキノ證
書ヲ出スル等第五十二章ニ同シ

但奉職十一年償還十五年ヲ限トス

第八十六章 生徒留學中言行ヲ慎ミ學業ヲ勉メ國

體ヲ汚サ、ルマウ日夜心ヲ用ユヘシ若シ懶惰或ハ不
行狀ニシテ前途ノ見込之ナキモノハ直ニ之ヲ呼戻ス
ヘシ

第八十七章 其地ノ辨務使ニ於テ常ニ生徒ヲ監視

シ毎年生徒ノ勤惰進退等明細表ヲ作り之ヲ本省ヘ送
リ即本省ニ於テ上梓公告スヘシ

第八十八章 時ニ因テ留學ノ定規ヲ變スヘキ件

々ハ本省ト辨務使ト絶ヘス往復商量シテ之ヲ改ムヘ
シ

學費ノ事

第八十九章 學事ニ關係スル官金ハ定額ニヨリ本

省ニ於テ一切之ヲ管知スル

但教育ノ設ハ人々自ラ其身ヲ立ルノ基タルヲ以テ

其費用ノ如キ悉ク政府ノ正租ニ仰クヘカラサル論

ヲ待タス且廣ク天下ノ人々ヲレテ必ス學ニ就カシ

メンコトヲ期スレハ政府正租ノ悉ク給スル所ニアラ

ズ然レモ方今ニアツテ人民ノ智ヲ開ク極メテ急

務ナレハ一切ノ學事ヲ以テ悉ク民費ニ委スルハ時

勢未タ然ル可カラサルモノアリ是ニ因テ官力ヲ計

リ之ヲ助ケサルヲ得ストイヘモ官ノ助ケアルヲ以

テ從來ノ弊ニ依著ス可カラスニ御布告

第九十章 凡人民ヲシテ學ニ就カシムル勉メテ廣

普ナルヲ欲ス故ニ官金ヲ以テ學事ヲ助クルモノ、如

キハ必ス民ノ及ハサルモノヲ助クルニアリ決シテ偏

重ノ事アルヘカラス士ヲ學ハレメテ農工商ヲ學ハレ

ナル者學ヲ得ス或ハ一人ニ數百金ヲ費マシテ學

給シ以テ當然トス是從來ノ弊ナリ公私學校ノ生徒衣

食ノ用ヲ供スル一切之ヲ廢止スヘシ

第九十一章 生徒衣食ノ費用或ハ官金ヲ以テ之ヲ

當今學事ヲ助クルニ官金ヲ以テスル

モノ左ノ目的ノ外ニ出ツヘカラス

一外國教師ノ俸給并ニ外國人ニ係ル費用方今才藝ヲ進ムルニハ

外國藝術ノ費用ヲ採ルニテリ即外國教師ヲ假ラサ

ルヲ得ス而シテ此俸給ハ生徒辨シ得ルヲ能ハス仍

ノ官ヨリ之ヲ助ク

一大學校ノ營繕及大學校ニ備フヘキ書籍器械學校營繕ノ如

キハ完全ナルニ非サレハ姑息ノ弊止マシテ生徒

ノ學業ヲ妨クル患多シタトヒ完全ナラストハ氏

其費用少シトビス宛理舎密其他百工技術必器械

以テ之ヲ教授ス此等ノ費生徒悉ク辨シ得ル能ハス

仍テ官ヨリ之ヲ助ク

一中學校ニ於テモ前ニ同シ

一生徒ニ費用ヲ給貸スルノ費第五十二章ヲ及留學生

公換生ノ費用

一學區ヲ助クル費第九十八章第九十九章第百章

第九十三章 諸學校ニ於テ需ツ所ノ費用ノ條件左

ノゴトシ

一教師ノ歳俸或ハ其居宅ノ屋賃

地方教育法
第九十六章

第九十六章 諸學校ニ於テハ第九十四章定ル所ノ

受業料ヲ以テ便宜ヲ計リ其學校ヲ保護スルヲ要ス
ヘシ然レモ生徒ノ多少ト學校ノ高下トニヨツテ其保
護スルノ費過不足ヲ生スヘシコレハ其校ノ情態ニ應
ジ少シク受業料ヲ斟酌スルヲ妨ケナシトス

但大學校及各國教師アル中學校ニ於テハ多分ノ不
足ヲ生スルハ言ヲ待タズ是官ノ助カアル所以トイ
ヘモ各校ノ情態同カラサルモノモ以テ之ニ應シ亦少シ
ク受業料ヲ斟酌スルヲアルヘシ中小學校トイヘモ
學區人民ノ貧富等ニヨツテハ少シク斟酌スルモ妨
ケナシ

第九十七章 定ムル所ノ受業料ハ當今ニアリテ一
概ニ行ハレサル事アラハ便宜ニ隨ヒ各區ノ情態及ヒ

學校ノ事情ニヨリテ暫ク下等ヨリ少ク定ムルヲアル
ヘシ

第九十八章 凡學校ヲ設立シ及之ヲ保護スルノ費

用ハ中學區ニ於テシ小學ハ小學區ニ於テ其責ヲ受ル
ヲ法トス故ニ官金ヲ以テ之ヲ助クルモノハ學區ヲ助
クルモノナリ區ノ情態ニヨリ人口ニ平均シ毎年出金
セシムルカ或ハ一時富人ヨリ出金セシ
ムルカ或ハ地方官ニテ舊來ノ積金等學校ニ費ヤレテ
妨ケナキモノアルトキハ其金ヲ以テ融通セシムルカ
其他幾種ノ便宜ハ土地ノ
事情ニ隨フヘシ

第九十九章 教育ヲシテ普及ナラシメンカ為メ府

縣ニ委託シ其學區ヲ助クルノ金額左ノ如シ
人員男女共一万人ニ付
ノ割

金 兩 三府七
十二縣

此金高 八其三分ノ二ヲ出シ 迄學

本文類典

加
大
典
典

區其他今般定ル所ノ規則ヲ立ツ可キノ基礎ヲ定ムヘシ基礎已ニ定ツテ此金額ヲ出ス

此金額ハ ヨリ向五ケ年 ヲ一期ト

レテ之ヲ定ム一期以後ノ増減ハ其時ノ議決ニヨルヘシ

此金ノ遣排ハ毎年六ケ月毎ニ詳記シ本省へ届クヘシ本省ニ於テ委シク上梓公告スヘシ

第百章 前章定ムル所ノ金額ハ務テ民力ノ及ハサル所ヲ助クルヲ以テ目的トス是故ニ尋常容易ノ事ニ使用スヘカラス

但此金專ラ小學ヲ廣普シテ學則完整ナラシムルカ為ニ用ノヘシタトハハ小學校ヲ設立セシメン為學區積金ノ幾分ヲ助ケ學區ニ托シ其使用ヲ為スコト

學區貧ニシテ力足ラサル時其幾分ヲ助クルコト止ムヲ得サル情故アリテ小學教師ヲ官ヨリ遣ス時其給俸ヲ助クルコト貧困ノ生徒受業科ヲ出スコト能ハサルモノニ其幾分ヲ助クルコト完全ノ學校ヲ設クル為メ其營繕等ノ用ヲ一時融通スルコト器械書籍體術等ヲ備フル為メ一時融通スルコト學區取締ノ給料幾分ヲ助クルコト等

第百一章 額金ノ内五分ヲ引キ別ニ之ヲ備ヘ置キ師範學校ニ於テ教授ヲ受ケシモノ後來小學ノ教師トナル時ニ其給料ヲ與フルノ助ケトスヘシ

但此俸給ハ學區ニ於テ辨スヘキモノトイヘ凡現今ノ事情イマタ茲ニ至ラサルモノアルヲ以テ官暫ク之ヲ助ケサルヲ得ス

本
文
類
典

加
典
典

第百二章 當今外國教師アル學校ヲ保護スルノ費用ハ本省ヨリ直ニ之ヲ管理ス地方官其情状ヲ具シテ本省ニ達スヘシ私ニ外國人ヲ雇ハクル學
第百三章 將來大中學ヲ設ケ及之ヲ保護スルノ費用モ前ニ同シ

但其教員アルヲ待テ逐々設立スヘシ

第百四章 變則中小學費用ハ地方官ノ見込ニヨリ之ヲ處分スヘシ

但其事實ヲ具シ本省ニ届クヘシ

第百五章 凡大中小學校ノ管轄ハ公私共務ヲ完全ナルヲ期ス若目前ノ速成ヲ欲シテ事姑息ニ涉ラハ到底得ル所ナカルヘシ故ニ其カヲ計リ今年其一ヲナシ明年其二ヲナシ順次進歩數年ヲ期シテ全國ノ完整ニ至ルヲ要ス

但生徒學業ノ事ニ至リテハ一日モ忽ニスヘカラストイヘ氏廣ク全局ヲ見テ宜ク本末順序ヲ誤ルヘカラス

第百六章 本省定額金ノ遣拂ハ毎年七月中明細ニ記シ上梓公告スヘシ

第百七章 諸學校ニ於テ毎年費ス所ノ金額ハ學校ノ實情ニヨリテ之ヲ定ムヘシ其公私共遣拂ハ第二號式ノ如ク明細表ヲ製シ毎年二月七月督學局ニ出スヘシ

第百八章 器械書籍ハ學校必要ノモノトス心ヲ用ヒテ完備セシメスンハアル可ラス諸學校所在ノ書器ハ第三號式ノ如ク表ニ製シ毎年二月中督學局ニ

第百二章 當今外國教師アル學校ヲ保護スルノ費用ハ本省ヨリ直ニ之ヲ管理ス地方官其情状ヲ具シテ本省ニ達スヘシ私ニ外國人ヲ雇ハケル學校ハ此限ニアラス

第百三章 將來大中學ヲ設ケ及之ヲ保護スルノ費用モ前ニ同シ

但共教員アルヲ待テ追々設立スヘシ

第百四章 變則中小學費用ハ地方官ノ見込ニヨリ之ヲ處分スヘシ

但其實質ヲ具シ本省ニ届クヘシ

第百五章 凡大中小學校ノ管轄ハ公私共務ヲ完全ナルヲ期ス若目前ノ速成ヲ欲シテ事姑息ニ涉ラハ到底得ル所ナカルヘシ故ニ其カヲ計リ今年其一ヲナシ明年其二ヲナシ順次進歩數年ヲ期シテ全國ノ完整ニ至ルヲ要ス

但生徒學業ノ事ニ至リテハ一日モ忽ニスヘカラストイヘ氏廣ク全局ヲ見テ宜ク本末順序ヲ誤ルヘカラス

第百六章 本省定額金ノ遣拂ハ每年七月中明細ニ記シ上梓公告スヘシ

第百七章 諸學校ニ於テ毎年費ス所ノ金額ハ學校ノ實情ニヨリテ之ヲ定ムヘシ其公私共遣拂ハ第二號式ノ如ク明細表ヲ製シ毎年二月七月督學局ニ出スヘシ

第百八章 器械書籍ハ學校必要ノモノトス心ヲ用ヒテ完備セシメスハアル可ラス諸學校所在ノ書器ハ第三號式ノ如ク表ニ製シ毎年二月中督學局ニ

出スヘシ
 第百九章 凡諸學校ノ設立スル必ス維持保護ノ目的ヲ要ス即第四號式ノ如ク表ニ製シ毎年二月中督學局ニ出スヘシ

○學制第十三章第一節表式

就學男女表

中學區 郡名 小學區地名 就學男女 不學男女

第何大學區門 何縣

第	區 學 中 番 何 第		郡 某	第	區 學 小 番 何 第		郡 某	村 某	村 某	村 某	合計	町 某	町 某	町 某	町 某	町 某	町 某	町 某	
	男	女			男	女													男
第	町	某	第	町	某	村	某	村	某	村	合計	町	某	町	某	町	某	町	某
第	町	某	第	町	某	村	某	村	某	村	合計	町	某	町	某	町	某	町	某
第	町	某	第	町	某	村	某	村	某	村	合計	町	某	町	某	町	某	町	某
第	町	某	第	町	某	村	某	村	某	村	合計	町	某	町	某	町	某	町	某

大文頭具

一己 藤 景

加
正
類
典

証
錄
証

金餘	統計										某積金
											後大給料
千支何月何日調算											
<p>羊蓋板新炭油等、如支費、一、部一</p>											

○學制第百八章第三號表式

但用紙美濃紙ノ事

獨	佛	英	從何月何月迄	修繕	現場調査	壬申何月改	公學	書籍名	冊數	器械名	員	新規買入
								何郡何村第幾番中學	何郡何村第幾番小學	代金	代金	
			生徒拝借				第幾大學區何縣管内					
			何々何冊				何郡何村第幾番中學					
			何冊				第幾中學區何郡何村第幾番小學					
			同上									
			併借返納									
			同上									
			併下ケ									
			同上									
			諸向出納									
			同上									

水文類典

一己承果

本
部
類
別

証
録
簿

蘭	何々	何部何冊	何部何冊	出何部何冊
總計	何部何冊	同上	代金	納何部何冊

第幾大學區内何縣管内
第幾中學區第幾番小學

Empty space for the main table content				
--	--	--	--	--

○學制第百九章第四號表式

但用紙美濃紙ノ事

公學
第幾大學區何縣管内
何郡何村第幾番中學
第幾中學區何郡何村第幾番小學

一ヶ年出費ノ大數

何百圓	學校營繕入費	何百圓	書籍料
何百圓	教授人給料	何百圓	器械料
何百圓	雇大給料	何百圓	諸雜費

總計何百圓

一ヶ年納金ノ大數

積金	利子	何百圓
何百圓	何百圓	何百圓
此	譯	合
何百圓	何百圓	何百圓
何ノ原ニテ	何ノ原ニテ	利子一ヶ年
積金	積金	上ノ如シ

本文類別

乙
系
果

九
正
類
典

証
録
簿

外年々積金何圓、増加ニ付年々利分何分、増加ノ

子利金附寄	何百圓	此	何百圓	誰寄附	合	何百圓	利子一ヶ年 上ノ如シ
		譯	何百圓	誰寄附			

但區内毎戸何錢ヲ以集メ一ヶ年如上
但生徒何人トシテ一人ニ付一月何錢ヲ
納メシメ一ヶ年如上

集金	何百圓
受業料	何百圓
官衙 扶助金	何百圓
統計	何百圓
殘餘	何百圓

干支
何月調

文部省伺

國家ノ以テ富強安康ナルユヘンノモノ世ノ文明人
ノ才藝大ニ進長スルモノアルニヨラサルハナシ而
シテ文明ノ以テ文明トスルユヘンノモノ一般人民
ノ文明ナルニヨレハナリ一般人民文明ナラスタト
ヘ一二ノ聖賢アリトイヘドモ文明ニ關スルモノ幾
何ノ是孝國王其人民ヲ督勵シ驅テ以テ學ニ就カレ
ムルユヘンニシテ彼己ニ不學ノ律アリ而シテ其民
之ヲ以テ刺トセス文明ヲ勸ムルノ至ナレバナリ夫
惟レハ 皇國學校ノ設アリトイヘル從來弊學風頗
ル固陋事情ニ近ク實用ニ疎ク遂ニ學問ヲ以テ人間
中一種ノ別乾坤ニ付シ了ル於是其學フ者或ハ給ス
ルニ衣食ヲ以テスルアリトイヘル其不學モノハ措

大
政
類
典

テ不顧之ヲ目前ニ觀ルトキハ學者或ハ比々トシテ
在ルモノニ似タリトイヘ氏之ヲ一般人民ニ概スレ
ハ誠ニ是九牛ノ一毛ノミ是ヲ以テ世ノ文明ト云フ
ヘケンヤ而シテ人ノ才藝多ク高尚ニ不至固ヨリコ
レニヨル今也御維新ノ際万般更始庶政風ノ如敷仰
キ願クハ千古ノ學弊ヲ洗除シ普ク人民ヲシテ其方
向ヲ大定レ其成ルヲ後來ニ期シ文明ヲシテ世ニ
浸澤シ才藝ヲシテ人ニ高上ナラシメシヲ依之首
春初四學制ノ大綱既ニ己ニ奉伺候隨テ其細目ノ條
件別冊數號ノ通承調候條御裁決奉仰候尤モ甲号ノ
旨趣御布告被 仰出候ハ、於文部省ハ乙号ノ通可
及普令隨テ別冊ノ次第追順可相運奉存候ニ付旁奉
伺候也 月日缺〇本文別冊中學制
ハ公布ト同文ニ付省行茲

此卷中

三三三

書面ノ趣現今將來ノ目的ニ可為伺ノ通候經費ノ儀
ハ財政ノ大計相立候上可及決裁候條即今急務ノ件
々承調可伺出事 六月廿四日

後來ノ目的ヲ期シ當今著手ノ順序ヲ立ル如左

一 厚クカヲ小學校ニ可用事

夫レ人ノ學業始メアルニ非サレハ善ク終リアル
鮮シタトヘハ高キニ登ルカ如シ若シ初階ヲ不經
マサニイツクヨリユカントスサレハ老成ノ練熟
ハ少壯ノ研業ニアリ壯盛ノ進達ハ幼時ノ習學ニ
基ク是文明ノ各國ニ於テ小學ノ設盛大隆壯ナル
ユヘンナリ 皇邦從來ノ風凡ソ人八九歳若シク
ハ十二三歳ヲ過ク尚學問ノ何物タルヲ不辨漸ク
長スルニ及ンテ其營生ニ汲々タリトイヘ氏素ヨ

水頭典

リ天然ノ良智ヲ其以テ可進達ノ時ニ棄テシメタ
ルヲ以テ志行賤劣求ル所モ亦隨テ得テ不能流離
落魄自ラ活スル不能者不可勝數タマヤ學ノモノ
ハ之ヲ其可學ノ時ニ不學ヲ以テ其基礎已ニ不立
タトヘハ無擔舟ノ如シ至ル所繫留レ其學遂ニ上
達スル不能ト多シ然ハ則世ノ文明ヲ期シ人ノ才
藝ヲ待ツ之ヲ小學ノ教ノ能ク廣普完整スルニ求
ルニアルノミ故ニカヲ小學ニ用ユルト當今著手
第一ノ務トス

一 速ニ師表學校ヲ興スヘキ事

小學ノ教ヘノ能ク完全ナルヲ得ルユヘンノモノ
小學教則ノ能ク齊整スルニアリ小學教則ノ能ク
齊整スルユヘンノモノ小學教師ノヨク教則ヲ維

持レテ之ヲ教ユルノ正レキヲ得レハナリ夫レ師
ノ生徒ニ於ル形ト影トノ如シ形不直レテ影直ナ
ランヲ求ムカ可得各國已ニ師表校ノ設ケアリ是
小學教員ヲ植成シ以テ教則ヲ整全ナラシメンカ
為也故ニ速ニ師表校ヲ興シ小學ノ教員ヲ植成シ
順次四方ニ派出セシメ益以テ之ヲ増植シ其教規
ヲ正シ以テ務ラ小學ノ教育ヲ完齊セシメンヲ欲
ス是當今著手第一中ノ尤急務トス

一 一般ノ女子男子ト均シク教育ヲ被ラシムヘキ事
人間ノ道男女ノ差アルトナシ男女已ニ有學女子
學ノトナカル不可且人子學問ノ端緒ヲ開キ其以
テ物理ヲ辨フルユヘンノモノ母親教育ノ力多キ
ニ居ル故ニ博ク一般ヲ論スレハ其子ノ才不才其

母ノ賢不賢ニヨリ既己ニ其分ヲ素定スト云ヘシ
而シテ今日ノ女子後日ノ人ノ母ナリ女子ノ學ビ
ザル可ラサル義誠ニ大ニナリトス故ニ小學ノ教
ヲ敷キ從來女子不學ノ弊ヲ洗ヒ之ヲ學ハシムル
一務テ男子ト並行セシメシテ期ス是小學ヲ興ス
ニ就テ第一義トス

一 各大區中漸次中學ヲ設クヘキ事

各大區中一所ノ大學ノ興スヘキトイハレ生徒ノ
學カ未タ大學ニ入ルニ不至故ニ先ツ西洋教師ヲ
撰ミ各大區中先ツ一二學校ヲ興シ生徒ヲ入レ其
階級ヲ不亂追日ノ成業ニ至ルヲ期スヘシ是人才
藝術ノ益廣多ナランヲ求ム學校ノ數増加セサル
ヲ得サレハ也

一 生徒階級ヲ踏ム極メテ嚴ナラシムヘキ事

從來ノ弊生徒規則ヲ不踏近下ナルモノヲ以テ卑
シトシ動モスレハ高尚ニ馳ストイヘレ其成就ス
ルノ幾稀ナリ不知近下ハ高尚ノ基タルヲ故ニ
生徒ヲシテ必ス其成スヲ期セント欲ス毫モ姑息
ノ進級ヲセシムヘカラス

一 生徒成業ノ規アルモノハ務テ其大成ヲ期セシム
ヘキ事

學問己ニ関テ生徒袖ヲ連メ而シテ其大成ノ器甚
少レキユヘシノモノ何ソヤ是多クハ目前ノ小利
ニ安シ切ヲ晚成ノ日ニ待ツヲ思ハサルニヨル
故ニ生徒成業ノ器アル者ハ務テ其志ヲ鼓舞シ其
大成ヲ期セシムヘシ故ニ如此ノ類必ス其大成ニ

至ルノ間決シテ轉動ノ一アルヘカラス 後來生徒ノ成業ヲ期スルユヘン也 得業生ノ設ケヲナスニハシナリ此規則別冊ニ

一 高法學校一二所ヲ興ス事

万貨運動ノ源察セカレハ万貨運動ノ用ヲナス不能今ヤ舟足四通四海比屋万貨ノ活動昔日ヲ以テ之ヲ知ル不可高法ノ學不可不講 皆趣アリ

一 凡諸學校ヲ設クルニ新築營繕ノ如キハ務テ完全ナルヲ期ス事

數十年ノ達觀シ務テ其大成ヲ期ス速カナルヲ貪リテ姑息ニ陥ル不可是ヲ以テ順漸齊整シ其以テ成ス所ハ毫モ退步セサランヲ旨トス

一 又譯ノ事業ヲ急ニスル事

言語ノ人心ニ浸染シ自ラ一國ノ語ヲナス各國不然ナレ今也人ヲ率ヒテ學ニ就カシム悉ク洋語ヲ以テ之ヲ教ユヘカラス又譯ノ業亦尤急ナルモノトス

教官教育所ノ定律

人有リ諸國ノ學問ニ曉通スト云ヘトモ我獨リ之ヲ修メ他ノ者ニ施行スルヲ不能假令博學ノ者トイヘ

凡唯獨立學者ト稱スヘシ
茲ニ人有リコレハ右ニ及レ一通リ諸學ヲ修メ自己ノ知覺シタル所ノ者ヲ以テ後進ノ士ヲ誘導ス之ヲ獨立學者ニ比スレハ其益遙カ上ニ出テタルモノニテ是レ則教官ト云フヘキナリ
之ヲ器物ニ比スレハ假令善キ品物トイヘ他ニ之

ヲ配用スヘキ出口ヲ持タサレハ是不用ノモノナル
ヘレ教官教育所ノ主意ハ學問ヲ修メ先輩タル人ハ
必ス後進ノ士ヲ誘導スヘキ一ヲ務メレム是レ則チ
出口ヲ持テル器物ニ比スヘキナリ

教官教育所ノ學徒ハ教導スヘキ道理及ヒ教育ニモ
種々法則アレハ其利益且ト不利益ノ事モ自然覺知ス
ヘレ又教師ノ監督ヲ受ケ後進ノ士ヲ誘導スルノ良
キ法則ヲ用ユル一モ亦知ルヘシ

假令定律アリ以テ之レニ寄り後進ノ士ヲ誘導スル
ノ良法モ發明スルナレハ是非コノ定律書ヲ讀ミ以
テ其教導ノ覺知スヘキヲナレハ教育ノ大主意ハ皆
書籍上ノミニヨリ以テ學フト云フニ非ス○故ニ教
官教育所ヲ建立セント欲スルニハ先ツ第一之レニ

備フヘキ教師ヲ撰擧スヘシ但シ之レハ數人ヲ備フ
ルニハ及ハス一人ヲ撰ミ置ク可シ最コノ人ハ學問
及ヒ實行ニモ曉通シタル者ヲ撰擧スヘシ故ニ政府
ニテ建立セントスルノ教官教育所ハ第一第二學校
ニ於ケル日本ノ教官ノミヲ以テ成立ツモノナレ共
若レコノ學校ヘ外國人ヲ同様入ル時ハ國語及ヒ學
問ヲ教導スルニ及ハサレストイヘハ教育ノ法則ヲ
教導スルノ大益ヲ生スヘシ

以來第一第二學校ニ於テ教官トナリ教導スルノ道
ハ必ス教官教育所ニ入り學フヘシ又學校書ト云フ
者アレハ其レニヨリコノ道ヲ覺フヘキナリ
教官教育所ノ教師ハ前ニ記載シタル如ク忠愛ニ教
育スヘキ道ヲ生徒ニ教ユルナリ

次ニ揭示セル箇條ハ上ニ論スル所ノ教導ノ最モ有益アル法ヲ云フ

日本ノ教育ヲ充分ニ受ケ且第一第二學校ニ於テ用ユヘト學校書ヲモ善ク學ビ得タルモノ凡ソ二十五人ヲ撰ミ以テ助教トスヘシ最年齢二十歳前後ニ限ルヘシ○ユノ二十五人ハ外國教師ヨリ毎日二時間ソ、教導及ヒ學問ノ教授ヲ受クヘシ

助教ヨリ年齢且學カミ一階下リタル生徒九十二人ヲ撰ミ之ヲ六組ニ分テ以テ一組ヲ十五人トス○毎日十時間助教三人或ハ四人ヲ一組トナシ生徒ニ附キ添フヘシ之レハ外國教師ノ誠實定律ニ從ヒ且第一ノ學校書ニヨリ以テ生徒ヲ監督スルカ故ニ其レヲ通辨スルノ為ノナリ○故ニ日々ノ勤メ時ヲ二様

ニ區分ス則チ左ニ例ヲ掲ク

時割

教授ノ區分

自九字至十字	教師二十五人ノ助教ヲ教授ス
自十字至十一字	助教生徒ヲ教授ス
自十一字至十二字	助教朝々教授ヲ受タル所ノ者ヲ筆記ス
自一字至二一字	教師二十五人ノ助教ヲ教授ス
自二字至三字	助教生徒ヲ教授ス
自三字至四字	助教午前ノ通筆記ス

時割

教授ノ區分

自九字至十字	助教生徒ヲ教授ス
自十字至十一字	全
自十一字至十二字	助教々師ノ改正ヲ筆寫ス

自一字至二字

教師二十五人ノ助教ヲ教授ス

自二字至三字

全

自三字至四字

午前ノ通改正ヲ筆寫ス

斯ク教育ヲ六ヶ月経テ後テハ必ス前ニ有ル所ノ二十五人ノ助教ニ對スヘキモノ生スヘシ○扱テ生徒ヨリ成熟ノ者二十五人ヲ撰擧レ以テ之ヲ助教トスル時ハ又新生徒二十五人ヲ以テコノ場所ヲ充スヘシ之レハ六ヶ月毎ニ二十五人ノ助教ヲ撰擧レ且全數ノ新生徒ヲ入校セシムルナリ則チ一年ニ五十人ナルヘシ

コノ學校ニ於テノ定則ハ學校中所有書生タルモノ第一學校ノ教官トナルヘキ學問ヲ修ムヘシ加フルニ外國教師ヨリ傳習スヘキ重ナル事ハ書籍上且ツ

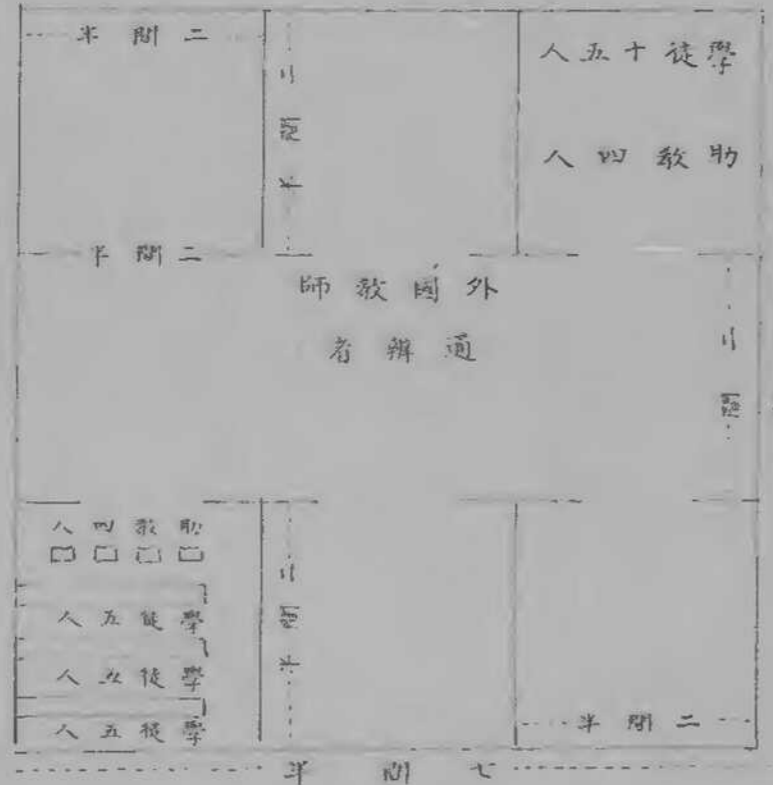
實行ノ二種ノ教導ナルヘシ

第一學校ニ於テ用ユヘキ初頭ノ書物ヲ六ヶ月ニ成熟スヘキ人多キヲ得ルコト誠ニ容易カルヘシ最モ之レハ年齢凡ソ二十歳前後ノ者ナルカ故ヘ斯ク早ク成功モ奏スヘケレトモ少年ノ輩ニ於テハ少クトモ三年ヲモ經ルヘキナリ

助教生徒ヲ教授スル間外國教師之ヲ監督センカ為メ舊古所ノ諸部一度ニ通覽スヘキ様造營スルナリ但シ之レハ生徒十五人ヲ一組トシコレニ一部屋與フルカ故ヘコノ部屋六局ニ分カルヘシ以テコノ六局ヲ一度ニ通覽セントノ為メナルヘシ故ニ部屋ノ一方ハ必ス開キ二部屋合併シテ舊古ヲナスヘシ之レハ書生ノ區々ニ分レ以テ舊古ヲナス時ハ斯ク他

ノ部屋ト合併スヘキ一モ有ルナレトモ然レ區々同
 時ニ外國教師ノ監督ヲ受テ同シ替古ラナス故ヘ斯
 ク合併スヘキ事ハ無カルヘシ
 外國教師ハ教導ヲ指示センカ為メ且ツ助教ノ生徒
 ニ向ヒ教授スル所ノ者ヲ監督センカ為メ決シテコ
 ノ一部屋ノ内ニハ立タヌ諸局ノ中央ニ位置スヘキ
 ナリ
 教育ノ重ナルモノハ何カト尋問スルニ之レハ政律
 ニ關係スルモノナレハ之ヲ指示スルニ及ハス
 コ、ニ又重立タル教導ノ法二種アリ之レハ日耳曼
 ノ第一第二學校ニ於テ格別ニ行ハレ有ルモノナレ
 ハ之レヲ何レノ國ニ於テ採用ユルトモ教導ノ最モ
 要用ナルモノナルヘシ

替古之所之圖



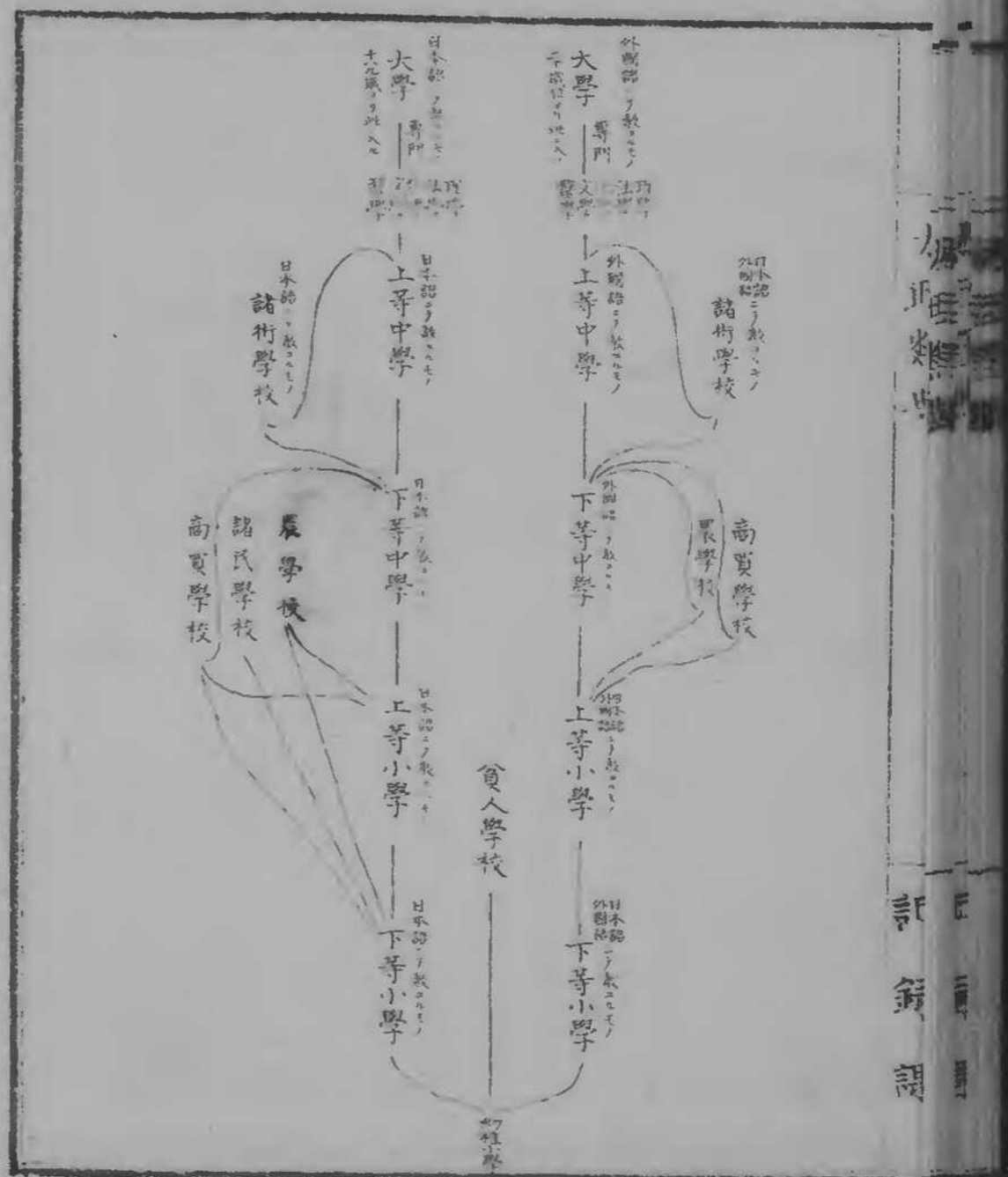
書中有ル所ノ助教ト云フハ階下ノ學生ニ對シ
 唱ルルノミニテ教師ニ向ヒ則チ生徒ナリ

水文頁具

水文頁具

加
正
類
書

託
銀
調



第一學童ニ於テ或ハ談話シ或ハ素讀シ或ハ筆記ス
トイヘ氏更ニ其意味ヲ了解セシテ談話素讀及ヒ
筆記スル等ノ事ヲ堅ク禁止スルカ故ニ一ト度教授
ヲ受テタル所ノ充分ニ成熟スル迄ハ決レテ次ヲ學
ブ事ヲ禁ス

第二他ノ學童ニ於テ教授ノ所ヲ充分ニ成熟ストイ
ヘ氏後日之レヲ忘却セス尚ホ充分ニ之ヲ記憶ヒシ
メンカ為メ次ヲ教授スル前之レヲ復習セシムヘシ
上ニ記載セル二種ノ良法ニ殆ント對スヘキ第三ノ
法ハ既ニ學ヒタル所ノ者ヲ理會シ且充分ニ記憶シ
タレハ之ヲ實地ニ施行スヘキノ良法ナリ
上ノ三法ハ歸スル所理會スルヲ記憶スルヲ及ヒ實
地ニ之レヲ施行スルヲ三種ニ限ルナレハ人之ヲ

本文
頁
典

誤り如何ニモ容易スヘキ一カト思考スルナレトモ
然レシレハ他ノ諸學術ノ如ク教育ノ道モ廣キ學術
ナレハ法則モ亦タ廣キカ故ヘ是容易ニ學フ所ニ非
ス

斯ノ如キ教官教育所ヲ建立スル時ハ良法ヲ施行ス
ル一是レ容易ナルヘシ

教官教育所ニ於テ教授スヘキ學科ハ第一第二學校
ニ至リテ又教授スヘキ學科ヲ用テ且又其レニ用エ
ヘキ學校書ヲ學フ事要用ナルヘシ

現今ノ實地ニ就キ御出方可相成費用表

- 一金十四万兩余 本省東南校 官員給科
- 一金二千五百二十兩余 長寄醫學校出 張官員給科
- 一金一万四千二百六十兩余 大坂醫學校出 張官員給科

一金一万六千兩余 同所開成所出 張官員給科

一金七万三千二百兩 本省東南校 校定額

一金二万兩 長寄醫學校 校定額

一金一万二千兩 同所廣運 館定額

一金一万二千兩 大坂醫學校 校定額

一金九千兩 同所開成 所定額

洋銀八万兩 東南校外 國教師給科

洋銀一万四千四百元 大坂開成所 醫學校同上

一金一万五千兩 本省東南校 官員旅費

一金五千兩 大坂開成所 醫學校同上

一金一万三千兩 本省東南校 管費

一金七千兩 大坂開成所 醫學校同上

一金一万二千兩 本省東南校 書籍 器械費用

此類

- 一金四千兩 大坂開成所 醫學校同上
- 一金二十二萬兩 外國留學 生徒學費
- 一金十五萬兩 受業生 徒公費
- 一金三萬六千兩 初等公換 生學費
- 一金一万六千九百兩余 師表學 校入費
- 一金三十六萬五千八百八十九兩余 京都府 鹿兒島縣外十三縣外 國教師給料洋學 校諸入費共
- 一金六十二萬五千八百兩余 州郡小學 校扶助金
- 洋銀一万四千四百元 文部省 御雇 外國人給料
- 洋銀一万五千元 御雇外國 教師旅費
- 一金一万兩 諸學校 官旅費
- 一金一万兩 本省官員 增加給料
- 一金四萬八千八百兩 八大區出張官員給 料元二巡回旅費共

- 一金七萬兩 東野 管轄入費
 - 一金三萬兩 專門校 管轄入費
 - 一金一万兩 文部省 御雇外國人 館舍管轄入費
 - 一金三萬兩 從前諸府縣 洋學校改正元 大學本部 中學等ノ費用
 - 一金八千兩 長崎廣運館 定額增加
 - 一金一万兩 南校 大坂長寄進 教師館建築入費
 - 一金七萬兩 交譯 科
 - 一金五千兩 博物館 書籍 館藥國入費
 - 一金四千八百三十一兩 本省諸雜 費增加
 - 一金五萬兩 教育事務進 費增加可相成備金 々々意外ノ入費
- 合計金二百二十五萬兩

このコマには 図面
表等がありますから下
記の原本をみてください。

請求番号

2A-9④466

ト財政ノ大計ト照應相成四方ノ注目ニ關係候様立
至リ候依テハ右學制章程且太政官布告文並當省達
書共至急刊行府縣ヘテ頒布可致唯經費ノ儀姑ク章
程中金額員數ノ相缺キ可申候是等不日符節難相違
次第ニ付何分得ト御聞置相成度此段申上候也

但刊行製本ハ本文ノ通施行致候ヘ共經費未定ニ
付別紙達書新ニ相添布告致シ候事 六月

同省布達

今般學制御確定相成候ニ付御布告書并學制章程共
別冊相渡候間自今右目的相立處分可伺出候也

但學制ノ儀ハ御確定相成候ヘトモ經費ノ儀ハ未
ク御決裁不相成候ニ付右學制ニ基キ新舊興廢ノ
次第成丈ケ為相運候儀ハ勿論ニ候ヘ凡新ニ官費

ニ關係致候儀ハ即時施行不相成候事 八月三日

文部省布達

公學私塾ヘ差入有之官費生徒廢置ノ件々并開學許
可等ノ儀ニ付當三月以來迄々布達ニ及置候次第モ
有之候處今般學制御確定一般御發行ニ付テハ從前
ノ布告中學制ト不相當ノ條々ハ都テ相廢止自今專
ラ學制ノ趣旨ノ以處分可致候事 八月三日

同省布達

今般學制御確定相成候儀并學制章程十九年ニ於テ有之候通書
并學制ノ趣旨ノ以處分可致候事

同省布達

御頒布相成候學制中誤謬ノ條々別紙ノ通改正

文部省布達

相成候間其旨可相心得候也八月

學制中誤謬ヲ訂正スルモノ左ノ如ク

御布告書三葉ノ裏第三行ノ細書華士族ノ下卒ノ字ヲ加フ

第十二章第一行ノ細書華士族ノ下卒ノ字ヲ加フ

第十四章ヲ改ムルノ左ノ如シ

官立私立ノ學校及私塾家塾ヲ論ヤス其學校限り定ムル所ノ規則及生徒ノ増減進否等ヲ書記シ毎年二月之ヲ督學局ニ出スヘシ

但官立大中學校ニテハ其書記ヲ三紙トシ一紙ハ督學ニ出シ一紙ハ地方官ニ渡シ一紙ハ學區取締ニ下タスヲ法トス

官立ノ小學及私學私塾家塾等ニテモ三紙ニ

書記シ之ヲ學區取締ニ出シ學區取締ヨリ地方官ニ出シ地方官之レヲ集メテ四月中督學局ニ出スヘシ其一紙ハ學區取締ニ留置キ一紙ハ地方官ニ留ムヲ法トス

第十五章第六行以下但書ヲ改ムルノ左ノ如シ

但大事ハ決ヲ本省ニ取り小事ハ直テニ之レヲ處分シ毎年二月本省ニ関申スヘシ

第二十一章第五行ノ末繼クニ左ノ十字ヲ以テス

其外廢人學校アルヘシ

第二十四章第二行其費用ノ下或ハノ一字ヲ加フ又第三行寄進金ノ下等ノ一字ヲ加フ

第二十七章下等小學教科中理學大意ヲ改メテ究理學大意トス

前同章上等小學教科中幾何學昇學大意ヲ二行ニ分
テ幾何學大意昇畫大意トス又化學大意ノ次ニ生理
學大意ノ五字ヲ加フ又画學ヲ改メテ圖畫トシ地球
學ノ三字ヲ削リ政躰大意ノ四字ヲ加フ
第二十九章第四行此外廢入學校アルヘシノ十字ヲ
削ル

前同章下等中學校教科中數學ヲ改メテ算術トシ理
學ヲ改メテ究理學トシ畫學ヲ改メテ圖學トス又幾
何學ノ次ニ代數學ノ三字ヲ加ヘ測量學ノ三字ヲ削
リ換フルニ生理學ノ三字ヲ以テス又次ニ政體大意
國勢學大意ノ二科ヲ加フ

前同章上等中學校教科中數學ノ二字ヲ削リ理學ヲ改
メテ究理學トス又幾何代數學ヲ二行ニ分テ幾何學
代數學トス又重學ノ下大意ノ二字ヲ加ヘ動植地質
礦山學ヲ四行ニ分テ動物學植物學地質學礦山學ト
ス次ニ生理學大意星學大意ノ二字ヲ加フ
第三十八章大學科目中化學ヲ改メテ文學トシ數理
學ノ三字ヲ削ル

第四十九章第四行他官員ノ上親族或ハノ四字ヲ加
フ第六十五章第八行モ亦同シ
第五十二章第二十行之ヲ賄フノ下今細書ヲ置ク
左ノ如シ

別ニ其學校定ムル所ノ下等受業科ノ借ルミノト
ス故ニ之ヲ加ヘテ共ニ償還スルノ金高トス
第五十五章第六行細書中校長ノ二字學長ト改メ校
ノ一字學校ト改ム

前同章第八行及ニ第九行但書中試驗ノ字改メテ檢

直ノ字トス

第六十五章第四行及第七行三ツノ試験ノ字モ亦同

第七十四章第一行一年ノ三字ヲ削ル

第九十二章大學校管轄云々ノ細書中舎密ノ二字改
メテ化學トス

文部省布達

別紙ノ通致改正候間此段相達候也 九月二日

學制中誤謬ヲ訂正スルモノ左ノ如シ

第四十三章

但家塾ハ地方官ニテ之ヲ開届毎年二月八月永集
メテ督學局ニ出スヲ法トス

第五十二章條下ニ

但閏月アラハ一年百三十兩トス

先般相達置候學制中左ノ通改正相成候事

第二大學區中大上縣ヲ削リ計六縣トス

第三大學區中七尾縣ヲ削リ計五縣トス

總計三府七十二縣ノニヲ削ル

第十四章條下毎年二月之ヲ督學局ニ出スヘシ二月

ヲ改メテ四月トス

學制中小學兩教科中へ國體學下科相加候條此段相

達候也 十一月十八日

學制中別紙ノ通改正相成候間此段相達候也 十一月十

學制第六十章同六十八章ノ但書同八十二章八十七

章八十八章中辨務使ヲ公使ト改ム

同第六十七章但書中辨務使ヲ公使館ト改ム

同第八十三章左ノ通改正

留學中疾病事故等アル時ハ其費證書ヲ以テ別ニ
公使館ヨリ受取歸 朝ノ上一時ニ償還スヘシ若
シ一時償還スルヲ能ハサル者ハ第五十二章ニ定
ムル所ノ償還使後ノ年限ヲ増スヘシ
但私費留學ノモノハ此地ニ於テ之レヲ本省へ
上納スヘシ

大正類典

學制部

學制

學制ノ條中ノ訂正ス

文部省布達

學制中第五十二章條下訂正スルヲ左ノ如シ

但シ間月アラハ云々ノ十字ヲ削ル

同第九十九章條下

人員男女共一万人ニ有當分ノ内九十圓一人ニ月九圓

ノ割

金二十九万三千五百二十七圓六十一錢一厘三府六十

九縣

大正類典

此金高ハ今般定ムル所ノ學制ニ因テ小學設立ノ基礎已ニ立テ之ヲ渡スモノトス

此金額ハ壬申十月ヨリ明治六年十月ヲ一期トシテ之ヲ定ム一期以後ノ増減ハ其時ノ議決ニヨルヘシ
文部

同上布達

學制

中第九十九章條下訂正スルノ如シ

人員男女共一万人ニ付當分ノ内九十圓一人ニ付九圓

金二十九万三千五百二十七圓六十一錢一厘三府六十

此金高ハ學校設立ノ基礎已ニ立テ之ヲ渡スモノトス

此金額ハ明治六年一月ヨリ十二月マテヲ一期トシテ之ヲ定ム一期以後ノ増減ハ其時ノ議決ニヨルヘシ

右ハ先般第一號ヲ以テ及布令候處尚又改正候條其旨相達候事 一月

同上布達

學制

中左ノ通差加候條此段相達候也 二月

第五章ノ末ニ人口大約十三万人ヲ以テ一中學區ノ目的トスノ註ヲ加フ

第六章ノ末ニ人口大約六百人ヲ以テ一小學區ノ目的トスノ註ヲ加フ

同上布達

學制

第十四章ニ掲載有之官立私立學校明細表別紙

雛形ノ通第十四章第五號表式差加候條此段相達候也

右第五號表差加候ニ付テハ學制第十四章條下ニ但共書記ハ第五號表式ノ如クスヘレノ十六字ヲ加フ二月

官ノ扶助金ナルノハ私費半ヲ過ルトニ公學ト書スヘレ

明治六年中學校及私學一覽表

第何大學區 何府縣

官立	私立	學名	位置	教師	貸費生徒	生徒男女	生徒總計

同上布達

學制第十八號

學制中左ノ通増補候條此段相達候也 二月

第十章但書條下ニ其給料幾分カ増給スヘキ等ハ地方ノ便宜ニヨルヘキノ細註ヲ加フ

第十一章條下ニ給料ハ一ヶ月凡金五圓ヨリ十圓マテヲ與フルル地方ノ便宜ニヨルベレノ細註ヲ加フ

第十四章條下ニ此表ハ地方官ニテ學區取締ヨリ出スモノノ集メテ之ヲ作り督學局ニテハ官立大中學ヨリ出ス所ノ書記ト別ニ一大學區ノ總計表ヲ作り共ニ之ヲ本省ヘ出スヘレノ細註ヲ加フ 同上布達

學制第十四章但書細註第五號表式增加ノ儀當年第十二號第十八號布令相達候處更ニ別紙ノ通致改

定候間此段相違候也 三月

第十四章官立私立ノ學校及私塾家塾ヲ論セス其
學校限リ定ムル所ノ規則及生徒ノ増減進否等ノ
書記レ毎年二月中之ノ督學局ニ出スヘシ

但生徒増減進否ハ第五號表式ノ如クスヘシ

此表ハ地方官ニテ學區未締ヨリ出ス者ヲ集メ
テ之ヲ作リ督學局ニ出スモノトス

學制第十四章第五號表式
官ノ扶助金アルモノハ私費半ヲ
過トモ公學ト書スヘシ
生徒進退及増減表

官立	私立	官立	私立	官立	私立	總計
學名	學名	學名	學名	學名	學名	學名
總生徒	總生徒	總生徒	總生徒	總生徒	總生徒	總生徒
上級	上級	上級	上級	上級	上級	上級
一級	一級	一級	一級	一級	一級	一級
二級	二級	二級	二級	二級	二級	二級
三級	三級	三級	三級	三級	三級	三級
四級	四級	四級	四級	四級	四級	四級
五級	五級	五級	五級	五級	五級	五級
六級	六級	六級	六級	六級	六級	六級
七級	七級	七級	七級	七級	七級	七級
八級	八級	八級	八級	八級	八級	八級
下級	下級	下級	下級	下級	下級	下級
一級	一級	一級	一級	一級	一級	一級
二級	二級	二級	二級	二級	二級	二級
三級	三級	三級	三級	三級	三級	三級
四級	四級	四級	四級	四級	四級	四級

學制中府管ヨリ差出候表及調書等毎年兩度ノ者有
之候處自今總テ毎年一度ニ相定候條此段相違候也
但開申期月ハ當年第四十號布令ノ通可相心得候
事 四月

同上布達

學制第九十八章細註ヲ削リ但書ヲ加フル左ノ如シ
學制第九十八章云々

但費用ヲ學區ヨリ出サシムルハ正租雜稅町費
村費ノ高ニ割合幾分ヲ出サシムル等其區ノ情
態ニ依ル可シ此外富人ノ獻金ヲ以テスルカ或
ハ地方ニテ舊來ノ積金等學校ニ費シテ妨ケナ
キモノアル時ハ其金ヲ以テ融通セシムルカ其
幾様ノ便宜ハ土地ノ情態ニヨリ處分スヘシ四月

同上布達

學制第十三章人氏子第六歳以上ノモノ學ニ就クモ
、幾人學ニ就カサルモノ幾人第一号式ノ通り毎年
可差出旨掲示有之ハ小學ニ就クモノニレテ六歳以
上十三歳迄ノ者ニ候筈為心得此段相違候也
進テ六歳以下十三歳以上ノモノトイハレ小學ニ
従事スルモノハ本文書式中ニ記載可差出事
同 上 布 達

學制第六章但書ヲ加フル左ノ如シ

但土地ノ情態ニヨリ數小學區中一小學ヲ興シ之
ヲ保護兼用スルノ類其便宜ニ任ス之ヲ聯區ト稱
ス 六年五月廿七日教區ヲ合セテ

同上布達 府縣

